

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「わかる授業」の実践(見通しのある工夫された授業展開)
「目標の明示」→「課題解決のための学習活動」→「振り返り」
- 主体的に伝え合う力、思考力・判断力・表現力を育成する具体的実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長:小川陽子 教頭:中山英治, 齋藤大志 教務主任:北田雅哉 研修主任:岩佐亜紀 学年主任:大谷哲也, 奥村昇, 山本美代子
河見 弘明	

校長

小川 陽子

川内中学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による授業参観や校内巡視などを通して、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○提出物が確実にできている生徒の割合が91%、授業内容が理解できている生徒の割合が89%である。 ●長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことに課題がある。	・授業内容をおおむね理解できている。 ・基礎的・基本的な内容を習得している。 ・長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことができる。	・単元ごとに小テストを実施する。 ・適切な量・質の課題をコンスタントに与える。 ・徳島新聞の「鳴潮」等の視写を週1回朝に全学年で行うとともに、学年に合わせたほかの課題も行い、文章表現の技法を身につけさせる。 ・朝の読書等長文にふれる機会をもつ。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対してまじめに考え取り組もうとする生徒が多い。 ○自分の考えや気持ちを発表できる生徒もいる。 ●文章を適切な言葉にまとめて書いたり、聞き手や読み手を意識して適切な言葉を選んだりすることに課題がある。	・各授業における課題に対し、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・課題についての説明を、根拠や理由を明らかにして、適切な言語活動により表現することができる。	・ホワイトボードや、タブレット等のICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・県学力向上確認プリントを全学年で活用する。 ・自分の意見を根拠や理由を明らかにして書いたり発表したりする機会を増やす。 ・定期テストで思考力を図る問題の出題を工夫する。 ・研究授業やオープンクラス・ウィークを実施し、他学年や他教科の教員から学び合う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○チャイム着席ができている生徒の割合が94%で、学習の準備ができている。 ●家庭学習の習慣が身につけている生徒の割合が68%であり、自分の不得意な学習内容に対して計画的に粘り強く取り組み、克服することに課題がある。	・主体的に授業に臨む基本的姿勢が確立でき、学習に課題意識を持って取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、その課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「授業のルール10か条」を全学級で掲示するなど目標を可視化し、指導を徹底する。 ・各授業で目標の明示と振り返りを行い、見通しのある工夫した授業を実践する。 ・テスト前に生徒に学習記録表を配布し、目標の設定や学習状況の記録、振り返りをさせる。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

